



昨年10月、さいたま市にオープン。手前右は手作業だけで大きな力が出せるダイヤル式刻印機

山田マシンツール

マーキングの悩み「すべて解決します」

「来ていただいたお客様さんの決断はホントに早い。実演を見てすぐ『これで十分だよ』ってね」

刻印機・装置メーカー

の山田マシンツールの秋

山隆嗣マーケティングシステ

ム事業部次長はそう笑

みをこぼす。同社が昨年

10月、同事業部内(さい

たま市)にオープンした

ショールームは同社製刻

印機装置のほか、協力会

社のインクジェットプ

リター、電解マーカ、高

速押印機なども揃える。持ち込んだサンプルをその場で加工することができ、品質やスピード、作業性を含め「マーキングに関する疑問・悩みならすべて解決できる」(同)のが特徴だ。

トレーサビリティや品質管理が手軽に行える

とあって利用者は徐々に増え、この1年間で約

200社が訪れた。レー

ザーマーカから刻印機

への切り替えが近年進ん

でいることもあり、ショールームを訪れた企業の実

に9割が受注に至るとい

う。

「レーザーマーカだと5

と5百万円ほどするうえ、周辺装置を含めると

1千万円を超えることも

ある。刻印機ならその投資コストが何十分の1で済む」

字で10字刻める高速性は、レーザー式と比べても遜色ない。自動車業界向け機器やそれを含むシステムが同社の主力だが、電気やエアをまったく使わないダイヤル式刻印機や簡易式刻印機も魅力。最大500キログラムの力を出せるダイヤル式はステンレス材も扱

え、トグル機構(人力程度の入力で大きな出力が得られる倍力機構)により使う人を選ばず同じ

深さで連続して刻印できる。輸入もので同様の機械があるが深さにバラツキがあり、ステンレスは

まず打てない。

最近では銀座にある高級

靴メーカー(革タグへの

ホットスタンプ)や建設

会社(盗難を防ぐための

建設資材への自社マーク

の刻印)などからも受注

し、医療向けも睨む。近

くこのショールームで商

社向け説明会を月に数

回開く予定という。